


令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	西田 早苗	担当者名	吉岡 欣哉
取組事例名 『スマイル・プロジェクト～みんなでつながろう！～』					
生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり		
取組における育てたい資質・能力					
「評価し改善する力」					
取組のねらい					
<p>○コロナ禍で異学年交流が難しい状況の中でも，高学年として，自分たちにできることを考え実践することで，下学年の児童が上級生とのつながりを感じ，学校に来ることが楽しいと考えることができるようにする。</p> <p>○6年生に，最高学年としての自覚をもたせるとともに自己有用感を感じさせる。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>学級活動（1）において，学級会オリエンテーションで話合いの一連の流れを確認した。その中で，新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動の自粛を余儀なくされている状況下において自分たちにできることを考え，実行した。</p> <p>全校とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童玄関にメッセージボードを置き，6年生から全校へのメッセージを発信した。 <p>他学年とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学してすぐに臨時休業になり不安を抱えている1年生のために何かできることはないか考えメッセージを作成し手渡した。また，休憩時間を用いてのミニ交流会を行った。 庄原小の高学年としてもっと5年生と仲良くなることができれば，より良いリーダーになれるのではないかと考え仲良くなるためのアイデアを出して5年生へのメッセージを作成した。 <p>学級の仲間とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 他学年にばかり目を向けてきた児童が，自分のクラスを振り返って「まだまだ自分たちのクラスに課題があるのではないか。全員が本当に安心して過ごせるクラスになっていないと思う。まだ，話ができない人がいる。残りの半年を本当に心の底から楽しんでいいクラスだったと言って卒業したい。そのためにはみんながもっと笑顔でつながれるクラスにしたい。」という児童の思いから話合いを行い，「笑顔でつながる会」の内容を考え実行した。 			 <ul style="list-style-type: none"> 季節や行事等に合わせたメッセージボードを作成することにより，全校で統一した意識付けとなるようにした。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○○さんへ 私は6年生の◇◇です。よろしくね。6年生は優しいのでいつでも話しかけてね。困った時はいつでも相談してね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 一連の活動（計画委員会の事前の準備での話合い，本時の話合い，話し合ったことを実行するための事後の活動）のそれぞれの場面で自己調整している姿を意識させ評価した。 話合い前によりよい話合いにするための必要なポイントを確認して意識付け，話合い後に振り返りを行った。 		
取組の成果と課題					
<p>○「自分の学級は楽しく安心だと思いますか。」の問いに対して，全校において肯定的評価が96%と高い数値となった。また，同質問に対して「とてもそう思う」と回答した6年生の割合は47.5%（7月）→60.6%（2月）と向上した。</p> <p>○できる限りみんなの意見を生かすことが大切であることに気付き，何とかいい方法はないか考えようとする児童が増えている。（共感的人間関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●6年生を中心とした取組だけでなく，他学年も巻き込んだ取組となるように，児童会を活用していく必要があった。 ●自主性をもった取組の推進に向けて，6年生だけでなく，他学年の意識の向上も図っていく必要がある。 					